

(別記)

## 令和7年度愛別町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

愛別町は耕地面積の約9割が水田であり、主食用米（うるち・もち・酒造好適米）、水稲を中心とした生産調整作物（飼料用米（玄米・もみ米サイレージ）・WCS用稲・加工用米）、土地利用型作物（麦・大豆・飼料作物・そば等）及び野菜の生産振興により水田を活用した農業を推進している。

ほ場の大区画化と透排水性の改善を図るため、国営緊急農地再編整備事業によるほ場整備工事が実施されており、事業完了予定の令和10年までの期間は毎年約100ha～150haの工事面積を予定していることから、事業期間中における水稲作付面積の確保が必要となる。整備後のほ場では、大区画ほ場の効果を更に高めるため、ICT技術を活用した作業体系への転換を図ることで、作業の効率化・省力化の実践によるコスト低減に取り組み、収益性の高い農業を展開していくことが課題となっている。

また、主食用米の需要が年々減少する中で、麦や大豆などの国産需要が高い農産物の生産によって収益を確保していくことが求められるが、気候条件も厳しく地域単収が低いため、生産を拡大していくためには、単収向上に向けた取組みが課題となっている。

### 2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

水稲作付面積を確保していくため、飼料用米を中心として作付けほ場の団地化とICT技術を活用した作業の効率化・省力化を推進していく。

また、収益性の高い麦・大豆の生産拡大を図るため、「麦・大豆産地生産性向上計画」に基づいた、生産部会や地域懇談会などの話し合いの場を活用した団地化に向けた取組みを推進するとともに、土壌改良材の投入や堆肥の施用等による土質の改善、明渠・暗渠や心土破碎などの排水対策を推進するため、産地交付金を活用して取組を支援する。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

「地域計画」に示す地域農業の担い手に農地の集積・集約を図るため、農地中間管理事業の活用を推進して農地の流動化を進め、地域内の水田を最大限に活用することで地域の収益力を確保する。

また、畑作物の連作障害回避等のため、ブロックローテーション体系の構築が図られるよう、無代掻き栽培技術の普及を推進する。

毎年度、水田台帳にほ場ごとの作付作物を整理することで、数年以上水稲を組み入れない作付け体系が定着しているほ場の有無を点検し、今後も水稲作付に活用される見込みがないと判断したほ場については、今後の作付け意向の聞き取り等を実施するとともに、畑地化支援の内容について情報提供を行い、畑地化の検討を促していく。

### 4 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

売れる米づくりを目指すため、愛別町米麦生産振興協議会で定める栽培基準の徹底により低タンパク・高整粒の高品位米の生産を推奨しており、Yes!cleanや特別栽培等の作付面積の拡大を推進している。

また、高密度播種や直播による育苗作業、自動操舵技術を活用した耕起・田植え作業、自動水管理システムによる水管理、ドローンを活用した防除、リモートセンシング技術を活用した生育状況の確認など一連の水稲生産作業に応じた効率化・省力化技術の導入を推進することで、生産コストの減少を目指し収益の向上を図る。

## (2) 非主食用米

### ア 飼料用米

畜産農家への安定的な供給を行うため、多収性品種の導入や複数年契約の取組により必要とされる数量を確保していくとともに、ほ場整備工事の実施期間においても必要な作付け面積を確保する。また、生産ほ場の団地化を推進することで作業効率の改善を図り、生産コストを抑えることで収益の向上を図る。

### イ 米粉用米

専用品種の作付けを推進し実需者からの要望に沿った生産の振興を図る。

### ウ 新市場開拓用米

現在のところ海外への輸出などの新市場開拓の取組みは行っていないが、海外輸出用の日本酒生産に向けた酒造好適米の生産など、実需の要望に沿った生産の振興を図る。

### エ WCS用稲

畜産農家への安定的な供給を行うため、多収性品種の導入や複数年契約の取組により必要とされる数量を確保していくとともに、ほ場整備工事の実施期間においても必要な作付け面積を確保する。また、生産ほ場の団地化を推進することで作業効率の改善を図り、単位生産コストを抑えることで収益の向上を図る。

### オ 加工用米

国営緊急農地再編整備事業によるほ場整備により、作付面積の増減が予測されることから、飼料用米やWCS用稲とあわせた作付面積の調整が必要となるが、実需に応じた安定供給が求められていることから、複数年契約の取組を推進する。

## (3) 麦、大豆、飼料作物

### ア 麦

需要に応じた生産を振興し、土壌改良資材の投入、明渠・暗渠の整備、心土破碎、均平整地などの排水対策、土壌診断に基づく堆肥の施用、農薬散布による除草対策、適期防除による病害虫対策などの基本技術を励行することで収量の確保と高品位・高品質の生産を推進する。また、生産ほ場の団地化を推進することにより、作業効率の改善を図る。

### イ 大豆

土壌改良資材の投入、明渠・暗渠の整備、心土破碎、均平整地などの排水対策、土壌診断に基づく堆肥の施用、狭畝密植栽培や農薬散布による除草対策などの技術を励行することで収量の確保と高品位・高品質の生産を推進する。また、生産ほ場の団地化を推進することにより、作業効率の改善を図る。

### ウ 飼料作物

飼料米等とあわせて実需者が求める品質の牧草、デントコーン、子実とうもろこしの生産振興を図る。また、生産ほ場の団地化を推進することにより、作業効率の

改善を図るとともに、安定した収量の確保に向けた計画的な草地更新や追加播種を推進する。

#### (4) そば

高品位のそばの生産と収量の確保を図るため、土壌改良資材の投入、明渠・暗渠の整備、心土破碎、均平整地、耕うん同時畝たて播種などの排水対策、土壌診断に基づく堆肥の施用、農薬散布による除草処理などの基本技術を励行することで湿害を防ぎ、収量の確保と高品位・高品質の生産を推進する。また、生産ほ場の団地化を推進することにより、作業効率の改善を図る。

#### (5) 高収益作物

「きゅうり・米なす・ミニトマト・アスパラ・ねぎ・ビーツ」を振興野菜、「南瓜・スイートコーン・サツマイモ・春菊」を奨励野菜と設定し、花き（ソリダコ・菊）、果樹（ブルーベリー・アロニア）とあわせた生産の振興を図る。

### 5 作物ごとの作付予定面積等

～

### 8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。